

プラットフォーム会員企業からの製品紹介① 文字起こし

はい。では、お時間いただきましてありがとうございます。グリーン株式会社の兵後と申します。

今日は、データを活用することで儲かる農業を支援するサービスとして「e-kakashi」と、今年度受託させていただきました、埼玉版データ駆動型農業データ収集分析システムを紹介させていただきます。

まず、私たちについて紹介させてください。私たちグリーン株式会社は2024年4月に創業いたしました。提供しているサービス「イーカカシ」は2015年にサービスインを果たし、10年以上の歴史があるサービスとなります。2024年にソフトバンクから事業譲渡を受けて運営を引き継ぎました。

「e-kakashi」が得意としているのは、栽培現場のお困り事を支援することです。環境データの収集はほんの一部です。得意としているのは、植物がどう感じているかを理解することだと考えています。これを「植物の声を聞く」と呼称しています。

「e-kakashi」は、植物の声をデータで捉え、ちょっと先の未来をAIで予測して、今何をすべきかの判断に使えるように設計しています。つまり、栽培の判断に使いやすい形でデータを提供しています。

基本構成は、圃場に設置するモニタリング装置とクラウドのセットです。ここにあるのもそうですね。

最も特徴があるのがAIになっています。農学や植物科学の知見を積んだAIが、少ないインプットでも精度の高い分析ができるように構築しています。導入したその日から、これ右側を見てくださいね、何月何日に収穫したらいいのとか、いつ病気や害虫のリスクが高まるのといった予測が受けられるのが特徴になっています。もちろん、こうベストな品質と収量で収穫できますし、病気や害虫の発生が予測できれば、リスクを回避することでロス削減が可能になります。作業効率も上がります。こういったことから、初年度から投資回収が目指せる、つまり儲かる農業が達成できるという仕組みになっています。今の状態とこれからの環境の動きが分かると、次に取るべき手を適切に打つことができますよね。

皆さん、ちょっと思い起こしていただきたいのですが、症状が見えてきた頃には手遅れだったという経験ありませんか？特に近年は気候変動の影響で環境の変化が早いかと思えます。そういった意味でも、早めに気づける材料が必要になっているかなと思っています。そのお手伝いができるサービスを目指しています。

一つ事例をご紹介します。先ほどの気候変動の典型例、去年の猛暑を思い出していただきたいと思えます。すごく高温で雨が少なくて、玉ねぎが不作だと報じられていたのを記憶に新しいところかと思えますが、データを活用して冠水を最適化し、不作を回避しただけでなく、増収まで実現された事例があります。今ご覧いただいているのは、JA帯広川西様の事例ですが、データを指導者と生産者が共同に活用し、指導に使う、生産者ご自身も冠水の判断に使うといった効率的な使い方をされています。その結果、玉ねぎの収量が最大で1.9倍、大きさもこのソフトボール大、写真に載せていますけれども、大きく生育できたというような実績を出されています。

施設栽培の例としては、JA福岡市東部様の事例を紹介させていただきます。こちらはベテラン農家さんと新人農家さんの両方にデバイスを設置して、データを見比べられるようにされました。そして、JAの指導員さんもそのデータを閲覧しながら必要な指導をされいらっしゃいます。その結果、この取り組みを開始した6ヶ月目で若手さんの育成ができました。しかも成果として生

産量が、昨年比 1.4 倍を達成されています。この新人さんだけではなくて、ベテランさんの成果も書かせていただいているのですが、生産量約 1.3 倍、それを達成されているというのが大きな特徴になっています。

ぜひ、皆様も自分の圃場に当てはめていただいて、「生産量が 1.3 倍になったら」とか、「1.4 倍になったら」と考えてみていただければと思います。この他、様々な事例を[e-kakashi.com]で紹介していますので、ぜひご覧いただければと思います。

では最後に、埼玉県様の事例を紹介させていただきます。今年度、埼玉版データ駆動型農業データ収集分析システムの開発を受託させていただきました。対象は施設園芸で、きゅうり、いちご、トマトがターゲットになります。

この中でね、もうすでに装置持ってるよ、導入してますよっていう方いらっしゃいませんか？多分いらっしゃると思うんですよね。今回の開発では、このちょっと左側見ていただきたいのですが、すでに装置を導入済み、そういった装置を生かす仕組みになっています。このお持ちの装置で収集しているデータですとか、栽培記録をクラウドに収集し、こちらの埼玉県独自のものになりますけれども、JA さんの卸売市場価格情報みたいな外部情報も合わせて取り込めるようにしています。

それを分析して、結果を関係者さんと共有して活用していただくようになっています。

生産者様につきましては、栽培の管理や出荷の判断に必要な分析結果がわかりやすく得られますし、この指導員の皆様にとっては、生産者様と同じ情報基盤で情報共有して、科学的な根拠に基づく指導を支える。そんな仕組みを狙いとしています。

今年の 4 月以降に本格稼働できるように準備中と聞いています。ご興味ある方はぜひ県にお問い合わせいただければと思います。

そして、「e-kakashi」のご質問については、ぜひこちらからお願いいたします。素朴なご質問ですとか、導入のご相談、何でも承っております。こちらの QR からお問い合わせフォームが開けるようになっていますので、ぜひご遠慮なくお問い合わせください。生産者様の小さな単位での栽培判断にも、指導に関する栽培指導のプラットフォームとしてもご利用いただけます。どうぞご連絡お待ちしております。ありがとうございます。
後藤さん、マイクをお返しします。

はい。ありがとうございます。

では、あまり時間はないのですが、もし質問あれば一問程度お受けしたいと思いますが、何か質問ございますか皆様。ありがとうございます。

よろしいでしょうか？はい。

どうもありがとうございました。

ありがとうございました。